

研究の概要

本稿は、東北学院大学経済学部生を対象にアンケート調査を独自実施して、真のニュースと偽のニュースの両方を含む、新型コロナ・ワクチン関連ニュースの正誤判断と情報共有判断について分析した。具体的には、293名の回答データを使って、ニュースの正誤判断を正確にできているのか、誤情報と分かっているにもかかわらず周囲と共有しようと思う人がどれくらい存在するのか、誤情報の共有を抑制することは可能であるのか、という三つの問いを検証する。結果として、大部分の回答者が誤情報を誤情報として正確に判断できていること、誤情報であると正確に判断できている人の中にその誤情報を周囲と共有しようと思う人が一定割合存在することが分かった。また、事前にニュースの正確さを意識させる介入を行うことで、誤情報の共有を抑制できることが分かった。しかし、この介入は正しい情報の共有をも抑制してしまうという新しい課題も発見された。